



おやこあら新聞

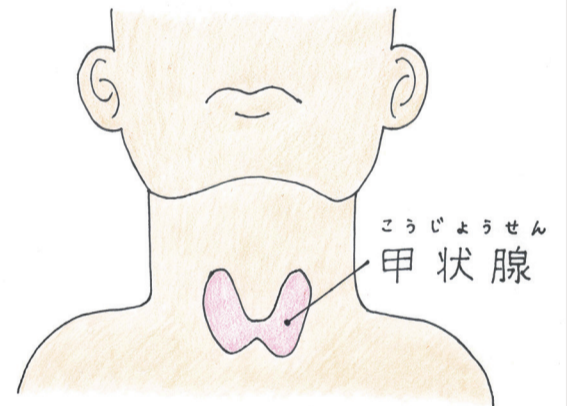
首のしこりに気づいたら



首は昔から人間の体の“急所”として知られてきました。“鬼の首を取る”、“寝首をかく”などの慣用句に示される“くび”は体で最も重要な場所の例えとして用いられています。また日頃から肌を露出し比較的良く触る場所でもあります。女性はおしゃれでネックレスをしたり、男性なら毎日ひげ剃りもしますし、鏡で直接首をみることも多いものです。首のしこりを偶然見つけるとびっくりして心配になる方もおられますが、首のしこりのほとんどは良性で必ずしも心配する必要はありません。しかし時には腫瘍(癌)の転移や悪性リンパ腫の可能性もありえます。まずは1週間ほど変化をみていただき、変化無ければ耳鼻科を受診してください。実は耳鼻科医は日常から首のしこりを見慣れてしています。いわゆる“頭頸部外科医”は外科的に頸部の治療を行っており、中にはもちろん悪性腫瘍の診断や治療の経験も含まれてきます。当院は頭頸部腫瘍の経験豊富な医師がその経験と最新の検査技術を駆使し、できるだけ早期段階で正確に“くびのしこり”の診断に至るように常に努めています。

Q1 首のしこりの原因は？

A1 首には甲状腺、耳下腺(おたふくではれる唾液腺)、顎下腺などの臓器や、リンパ節などがひしめいています。さらには頸動脈や咽頭、喉頭などの組織もあり、腫れに気がついた時には“脂肪のかたまりだろう”と安易に決めつけず、きちんと専門医を受診して検査してもらうことが大切です。もちろん腫瘍以外の組織、例えば軟骨(甲状軟骨、輪状軟骨)をしこりと勘違いすることもありますし、本当に脂肪のかたまり(脂肪腫)ということもあります。首の真ん中には甲状腺という甲状腺ホルモンを作る臓器が蝶の羽を広げたように張り付いており、痩せた方は正常の甲状腺が腫れて見えることもあります。ここには腫瘍ができることも多く(女性に多い)、超音波エコーで診断を行います。一方耳下腺はおたふく風邪で腫れる耳の前から下にかけて広がる唾液分泌腺ですが、時々腫瘍をきたします。良性腫瘍が多いですが、悪性の場合には顔面神経が走行しているため、顔が曲がって痛みが出て気がつくこともあります。小児の顎下にはがま腫といって舌下腺がふくらむ状にふくれたりする病気や、リンパ管からなるリンパ管腫ができることもあります。しかし圧倒的に一番多いのは首のリンパ節の増大です。リンパ節には反応性腫脹(良性)がほとんどですが、稀に悪性腫瘍(悪性リンパ腫)、がんの転移が首にくることもあり注意が必要です。



Q2 首のしこりって命に関わることがありますか？

A2 Q1でお話したように耳下腺癌や悪性リンパ腫、がんのリンパ節転移は非常に稀ですが、逆に言うと少ないながらも見落としとしてはならない“くびのしこり”です。唾液腺腫瘍では耳下腺より顎下腺腫瘍の方が悪性の頻度が高いと言われています。耳下腺腫瘍は悪性化するとQ1でも出たように痛みを生じやすくなりますが、逆にリンパ節だと炎症の方が痛みが多い特徴があります。若い方に多い亜急性壊死性リンパ節炎は痛みと発熱が特徴です。リンパ節転移はリンパがはれている場所によって、元のがんのある場所(原発巣)が違います。口腔癌、鼻副鼻腔癌、咽頭癌、喉頭癌など、首に原発巣あることが多いですが、鎖骨上のしこりは胸やお腹からのリンパ節転移の場合もあり注意が必要です。

Q3 首のしこりはどうして耳鼻科に行った方がいいんですか？

A3 耳鼻咽喉科は正式には“耳鼻咽喉科・頭頸部外科”と呼び、基本、耳鼻咽喉科専門医は首のしこりについて深い知識と経験を持っています。また、がんの転移を疑うリンパ節を認めた時には原発巣がどこか、喉頭ファイバー(内視鏡)や視診で同時に診察をすることが多く、首のしこりの専門は耳鼻咽喉科といえます。耳鼻咽喉科医はバラエティーに富んだ病変を数多く診てきています。さらに“頭頸部がん治療認定医”“がん治療認定医”などの資格を持つまでには更に様々な首のしこりの治療に当たっている経験が必要であるため、主治医を選ぶ際にはこのような資格を持っている医師を頼るのも一案です。当院では“がん治療認定医”を有し、多くの首のしこりの治療を経験した医師が患者さんの悩みをきちんと聞いて、正確な診断をするよう心がけています。



Q4 どんな検査をしますか？

A4 当院では視診触診でしこりの硬さ、動きやすさや形を見極めて、頸部エコー(超音波検査)を行います。また必要があれば細胞の検査(針をさして一部の変化を検査する)も行いますが、検査結果がでるまでには数日かかります。検査の結果次第で造影CT・造影MRIや腫瘍を摘出して行う組織検査など更に詳しい検査が必要だと判断した場合には基幹病院へ紹介し、治療方針の検討まで行います。

Q5 エコーでどんなことがわかりますか？

A5 耳下腺や顎下腺などの唾液腺腫瘍は、周辺への浸潤や腫瘍内部の状況を観察し良性悪性を判断します。リンパ節では正常組織として“リンパ門”がきちんと見れるかどうかで悪性疾患の推測を行います。耳下腺腫瘍は良性腫瘍のワルチン腫瘍、多形腺腫など病理組織診断が非常に難しいのが特徴です。顎下腺は唾石症といって石ができたり、自己免疫疾患でも硬く腫れたりする場合は腫瘍ではなく、腺全体が均等に腫れるのが特徴です(硬化性顎下腺炎、IgG4関連顎下腺炎)。唾石の有無の診断はエコーがもっとも得意とする領域です。

Q6 甲状腺が腫れているときに考えられる病気はありますか？

A6 甲状腺という言葉聞いたことがあると思いますが、意外に正確な場所をご存知の方は少ないものです。甲状腺は甲状腺ホルモンという“エネルギーを作る”ホルモンを産生するため、足りなくなると体がだるくなったり、寒がりになります。甲状腺のしこりは女性に多く、悪性の場合には甲状腺がんとなりますが、超音波(エコー)検査と細胞診で診断をつけます。治療は基本手術ですが、声の神経である“反回神経”に注意が必要になります。甲状腺の炎症は甲状腺ホルモンが多いものを“バセドウ病”といい、汗をたくさんかき動悸がしたり体重が痩せたりします。治療は手術や放射線治療、内服治療などです。逆にホルモンが少ないものは“橋本病”といい、先に書いたように寒がりやだるさが生じる他、むくみや声がすれが起ることもあります。治療はホルモンの補充療法です。



先生からのひとことアドバイス ~首が腫れる病気ってどんなものがあるの?~

首が腫れている、しこりというほどコリコリしていないんだけど…。そのような病気はどのようなものがあるのでしょうか?痛みや発熱を伴うものは急性の感染症のことが多いです。有名なのはおたふくかぜ。ムンプスウィルスによって、耳の下の耳下腺が腫れる病気です。両方の耳下腺が腫れることが多いのですが、最初は片方だけで時間差があったり、片方だけが目立って腫れて反対は目立たないまま終わることもあります。おたふくかぜは、稀ですが、難聴や睪炎、睾丸炎などの合併症を起こすことがあります。予防接種が有効ですので、かかったことがない人は予防接種を受けておいたほうがよいですよ。ご飯を食べると顎の下が腫れる、このような場合には、顎の下の唾液腺(顎下腺)に唾石という石ができています。石は自然に出てくることもありますが、出てきにくい場所にあつて、痛みや腫れが強い場合には手術で取り除きます。痛みはないけれども唾液腺が全体的に腫れている、口も乾くという場合には、シェーグレン症候群という自己免疫疾患の可能性があるので、血液検査で抗体ができていないかを調べます。その他には、生まれつきの小さな良性の袋が体の中にあつて、ある時を境に大きく腫れて目立つようになり(頸部のうぼう)、首の前の下の方が腫れていれば、甲状腺の病気のこともあります。いずれも、血液検査やエコーで何が原因で腫れているのかを調べるのが大切ですので、どうぞお気軽にご相談ください。

“キニナル”おやこあらのミニコラム



こんにちは!受付の嶋壽です☆

早速ですが、みなさん休日はいかがお過ごしでしょうか??私はよくカフェ巡りをしたり、旅行に行ったりしてリフレッシュしています♪最近では広島宮島に初めて行って来たのですが、牡蠣の美味しさにとっても驚きました!!旅先で当地の美味しいご飯を食べることが1番の楽しみで、ついつい食べ過ぎてしまうので今後は気をつけたいと思います(^^)日々頑張っている分、お休みの日は好きなことを沢山して自分を労わってあげてくださいね!みなさんの健康と幸せを心より願っています☆

編集部員 します

★編集後記★ おたふく風邪に3回かかったことがあるとずっと思っていた私。今号の作成にあたり、おたふく風邪はほとんどが1回で済むので、他2回の耳の下が腫れて痛かったのは耳下腺炎だったことを知りました…そうだったのか…首のリンパは病原体が入ってきたよーと腫れて知らせてくれる見張り番でもあります。首をたまに優しくさすってみてください。あれ?と思うことがあるかもしれません。

編集長 あなん

しらつち耳鼻咽喉科

ここよはないいな
TEL:092-554-8717

〒811-1344 福岡市南区三宅3丁目16-26

<https://shirajibi.com>



診察時間

	月	火	水	木	金	土	日祝
9:00~12:30 (最終受付 12:00)	●	●	●	●	●	★	—
14:00~18:00 (最終受付 17:30)	●	★	—	●	●	—	—

★は2診体制で診療を行っています。

休診 水曜午後・土曜午後・日曜・祝日

